

小説

宇野千代

岩国市
(1897～1996)



【著作】

『色ざんげ』（昭和10・中央公論社）
『おはん』（昭和32・中央公論社）
『生きていく私』（昭和59・毎日新聞社）ほか

日本、女流文学界の巨星、大輪の花、宇野千代は、明治三十年（一八九七）に、現在の岩国市で生まれた。だが、小学校教員時代の恋愛事件がもとで、ふるさとを追われ、ほぼ五十年間帰郷できなかった。

離婚、破産、大病などに遭遇し、人生の辛酸をなめたが、大らかに作家の孤高を貫き、平成八年（一九九六）、九十八歳の天寿を全うした。

作家・尾崎士郎、画家・東郷青児、作家・北原武夫と結婚し、別れた。しかし、純粹な愛を貫く心情とその遍歴が、かえって強靱なバネとなつて「おはん」や「風の音」などの珠玉の名作を次々に生んでいった。巧緻を極めた手工芸品（※注）「おはん」によつて野間文芸賞、女流文学者賞を受賞、文壇上の地位を不動のものとした。

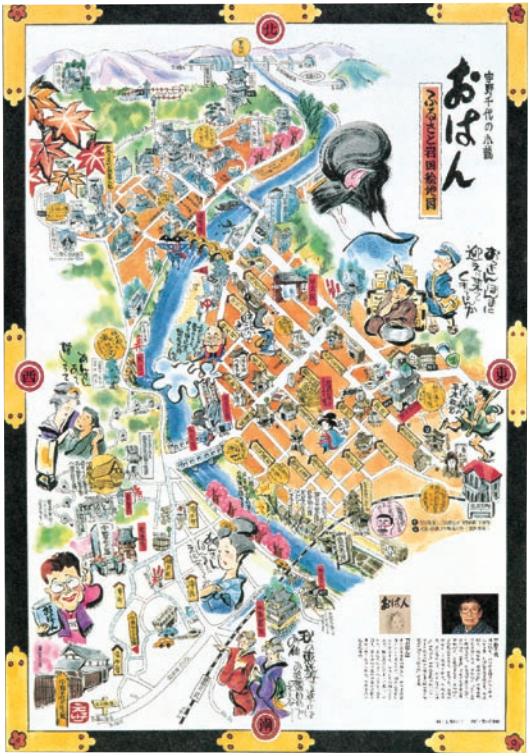
八十六歳の頃、赤裸々な大河自伝「生きて行く私」で人気再燃。「おはん」とともに各種メディアに取り上げられた。

晩年は、さわやかな幸福論、恋愛論、人生論を展開し、「愛別離苦」に悩める人々の体験的な指南役を果たした。

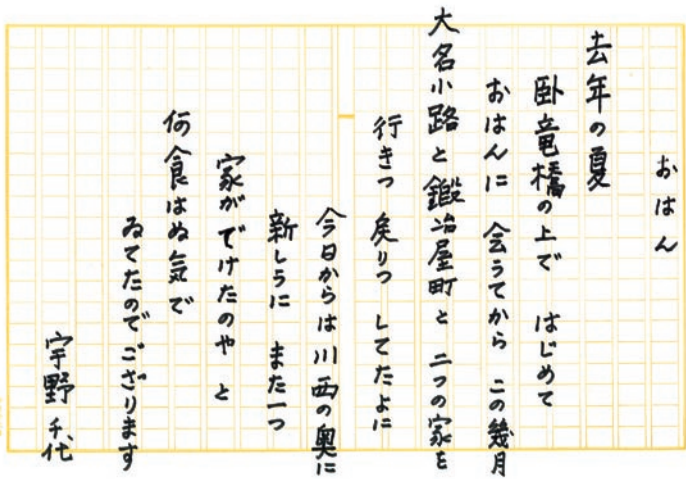
「故郷こそ、私自身のすべてなのである」と語り、作品中に郷愁を漂わせている。

（文・元島祥次）

（※注）新潮文庫『おはん』の解説で奥野健男氏が評した言葉



おはんマップ



「おはん」直筆原稿

宇野千代 年譜

（提供・元島祥次）

明治30（一八九七）年

大正3（一九一四）年

一七歳

大正4（一九一五）年

一八歳

大正6（一九一七）年

二〇歳

大正8（一九一九）年

二二歳

大正10（一九二一）年

二四歳

大正11（一九二二）年

二五歳

昭和2（一九二七）年

三〇歳

昭和5（一九三〇）年

三三歳

昭和10（一九三三）年

三八歳

昭和11（一九三六）年

三九歳

昭和14（一九三九）年

四二歳

昭和17（一九四二）年

四五歳

昭和19（一九四四）年

四七歳

昭和21（一九四六）年

四九歳

昭和26（一九五二）年

五四歳

昭和32（一九五七）年

六〇歳

昭和34（一九五九）年

六二歳

昭和39（一九六四）年

六七歳

昭和46（一九七一）年

七四歳

昭和47（一九七二）年

七五歳



「おはん」文学碑（岩国市）

宇野千代